

平成14年度 年金資金運用基金の資金運用の結果について

1 年金積立金全体で見た運用状況

- 年金積立金全体（年金資金運用基金の運用部分と財政融資資金への預託部分の合計）の運用結果は、約2400億円（見込み）、約0.17%のプラスとなりました。
- 年金財政上予定していた利回りと比較して、0.38%上回りました。
（金額換算 5400億円相当）

① 単年度の損益

- ・ 年金資金運用基金部分 △3兆 608億円
- ・ 財政融資資金への預託金の利子収入 +約3兆3000億円（見込み）
- ・ 年金積立金全体の損益合計 約2400億円のプラス

② 年金財政上の予定との比較

	名目利回り	賃金上昇率	実質的な利回り	比較	金額換算
運用実績（見込み）	0.17%	-1.15%（注1）	1.34%	0.38%プラス	5400億円
財政上の予定	3.48%（注2）	2.50%	0.96%		

（注1）運用実績（見込み）の賃金上昇率は、厚生年金の平均標準報酬月額伸び率から、農林年金の統合、65～69歳への適用拡大及び年齢構成変化の影響を控除したものである。

（注2）平成11年財政再計算における年金財政上の予定利回りは、平成12年度以降の新規の預託分（寄託分）の名目利回りを4%と仮定し、実績及び予算値による平成11年度までの預託分の名目利回りと加重平均することにより算出されたもの（厚生年金と国民年金の加重平均）である。

2 14年度の年金資金運用基金の運用結果

- 14年度の年金資金運用基金の運用結果は、△2兆4715億円でした。
また、損益合計は、旧年金福祉事業団から承継した14年度分借入利息5893億円を加えた、△3兆608億円となりました。
- 14年度末の累積利差損は、13年度末の累積利差損△3兆109億円に上記の損益合計を加えた、△6兆717億円となりました。

① 単年度の損益

<ul style="list-style-type: none"> ・ 市場運用（総合収益額） △2兆5877億円 <li style="padding-left: 20px;">（総合収益率） △8.46% ・ 運用手数料等 △184億円 ・ 財投債の収益額 1347億円 	}	△2兆4715億円
<ul style="list-style-type: none"> ・ 借入利息 △5893億円 	→	損益合計 △3兆 608億円

② 累積利差損益

- ・ 14年度末 累積利差損 △6兆 717億円（13年度末 △3兆 109億円）

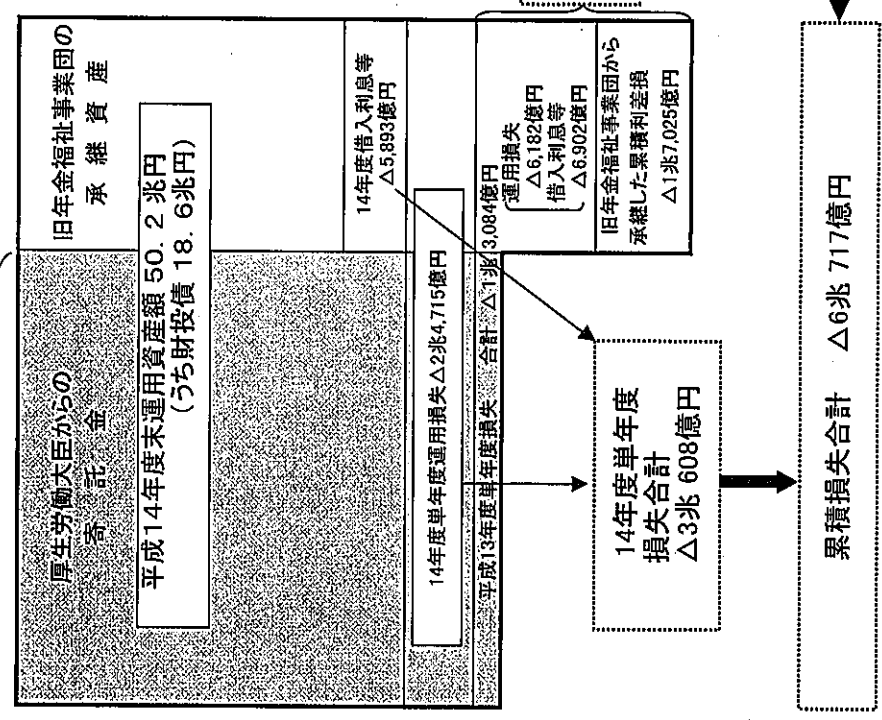
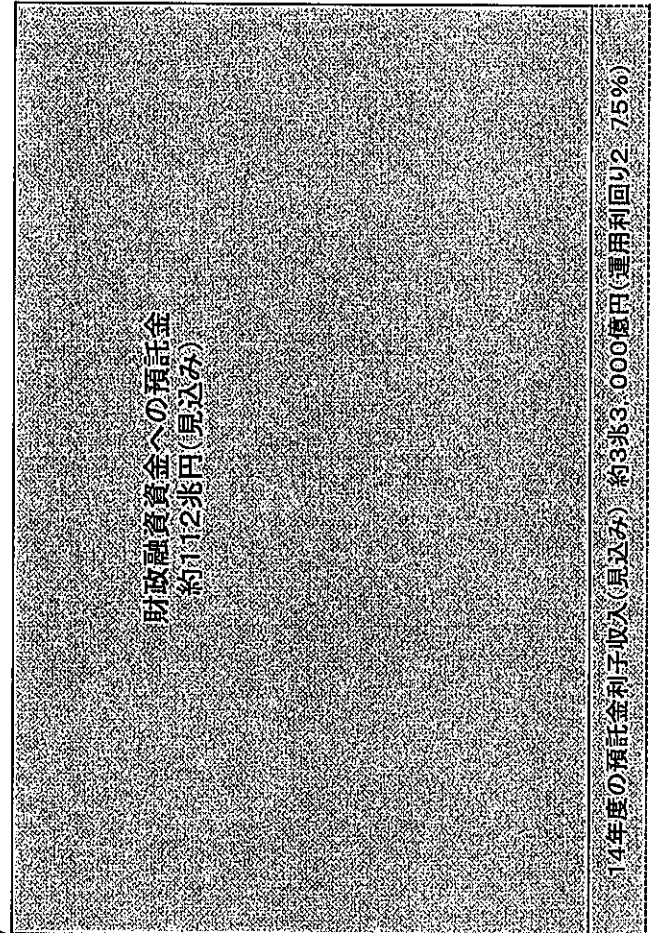
(参考1)平成14年度 年金積立金及び年金資金運用基金の運用資産の運用結果

年金積立金

年金資金運用基金の運用資産

「厚生年金保険及び国民年金における年金積立金運用報告書」において運用結果を公表(本年秋季に公表される見込みです。)(厚生労働大臣)

今回の「資金運用業務概況書」において運用結果を公表【年金資金運用基金】

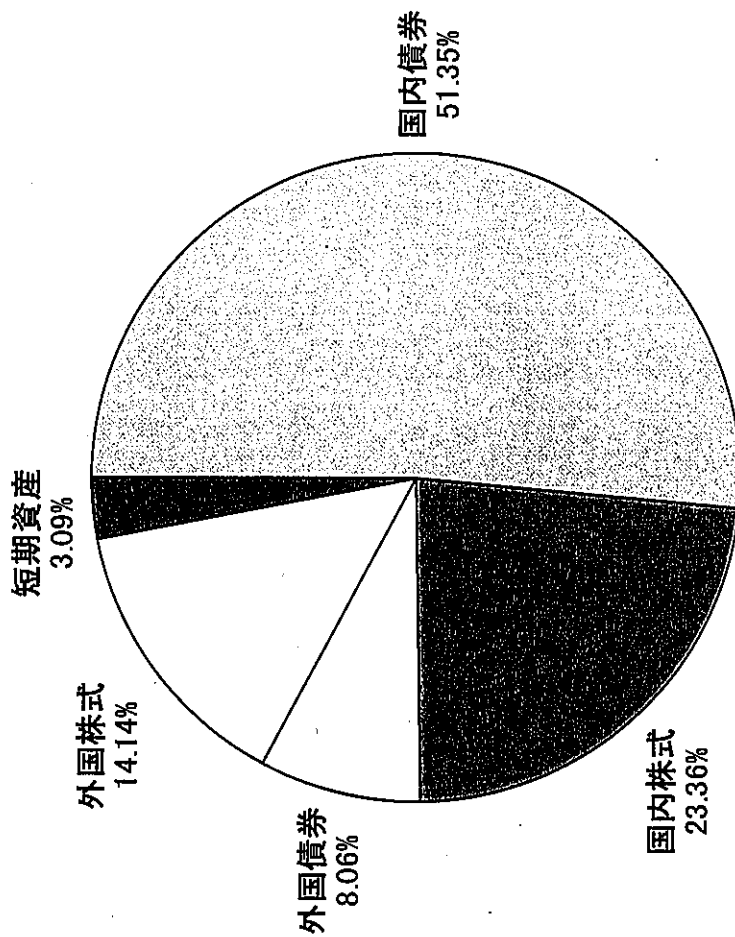


注1) 網掛け部分は「年金積立金」、太枠線部分は年金資金運用基金の運用資産。
注2) 「14年度末運用資産額」の中には未払費用等を含んでいる。

(参考2) 年金資金運用基金の運用資産の構成状況(平成15年3月末現在)

	時価総額(億円)	構成比	移行ポート フォリオ	乖離状況
国内債券	162,269	51.35%	51.00%	0.35%
国内株式	73,818	23.36%	24.00%	-0.64%
外国債券	25,458	8.06%	8.00%	0.06%
外国株式	44,676	14.14%	14.00%	0.14%
短期資産	9,766	3.09%	3.00%	0.09%
合計	315,988	100.00%	100.00%	-

時価総額(市場運用分)



財投債(簿価)	186,155
(時価総額 192,094)	

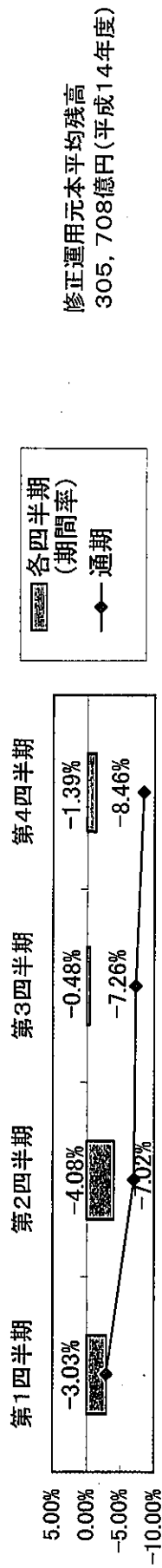
注1) 上記の数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計の値と必ずしも合致しません。

注2) 時価総額は未収収益及び未払費用等を含みます。

注3) 財投債(簿価)は償却原価法による簿価に未収収益を加えたもの。

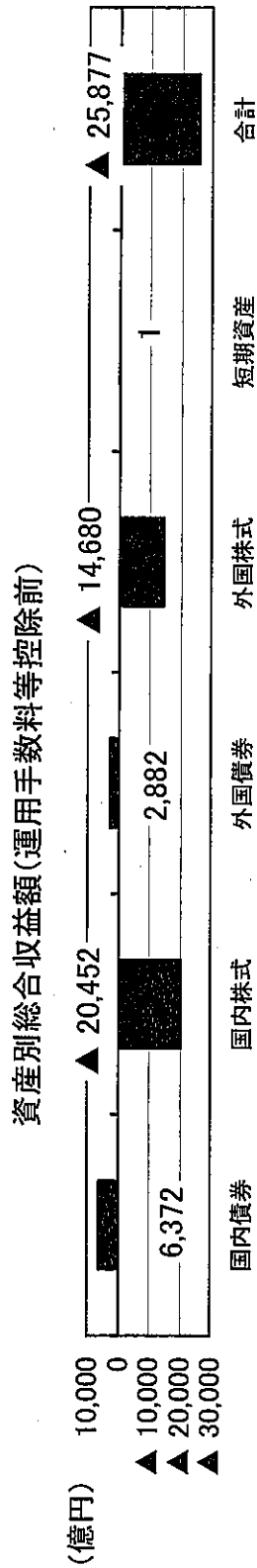
(参考3) 平成14年度 四半期ごとの資産全体の修正総合収益率(期間率)

修正総合収益率(市場運用分)

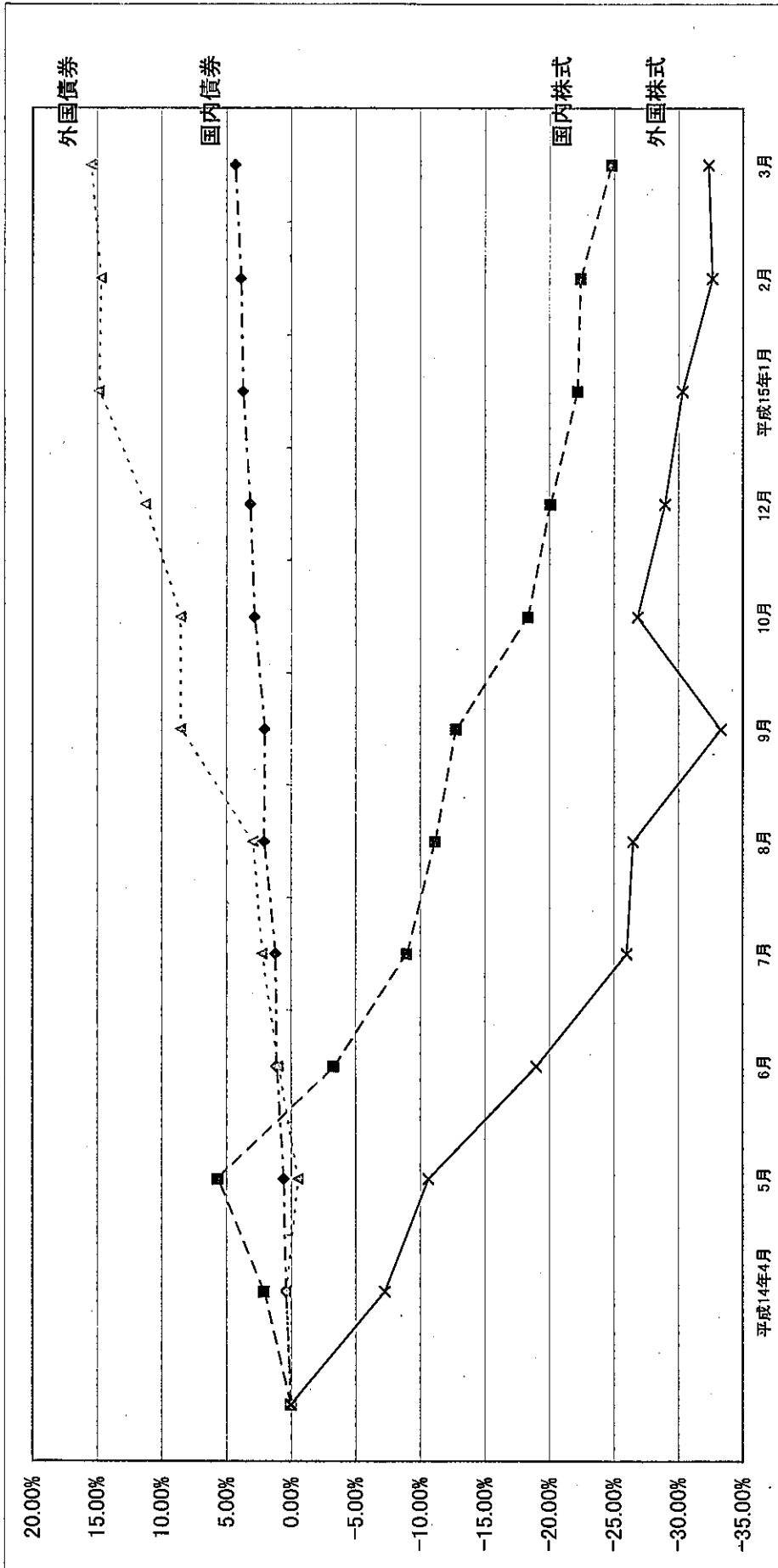


(注) 修正総合収益率 = 総合収益額 ÷ 修正運用元本平均残高 (毎月の運用元本残高平均額 + 前期末評価損益・未収収益)

(参考4) 平成14年度 資産別総合収益額(市場運用分。運用手数料等控除前。)



(参考5) ベンチマーク収益率(累積)の推移



○ベンチマーク騰落率

	平成14年4月～平成15年3月
国内債券 (NOMURA-BPI総合)	4.26%
国内株式 (TOPIX配当込)	-24.83%
外国債券(円ベース) (SSB-WGBI)	15.47% (注1)
外国株式(円ベース) (MSCI-KOKUSA)	-32.37% (注2)

(注1) 平成15年4月7日付でSSB-WGBI(ノロモン・スミス・バーニー世界国債インデックス)はCitigroup WGBI(シティグループ世界国債インデックス)へ名称変更されました。

(注2) 外国株式のベンチマーク(MSCI-KOKUSA)は、2002年6月末までは暫定指標、以降は標準指標を使用しています。

(注3) 為替レートはWMロイター社ロンドン16時仲値(対USDドル)を掲載しています。

○運用環境

	平成14年3月末	平成15年3月末
国内債券(新発10年国債利回り)	1.390%	0.700%
国内株式 (日経225)	11,024.94円	7,972.71円
(TOPIX)	1,060.19ポイント	788.00ポイント
外国債券 (米国10年国債利回り)	5.39%	3.80%
(SSB-WGBI)	219.98ポイント	254.02ポイント (注1)
米国株式 (NYダウ)	10,403.94ドル	7,992.13ドル
(MSCI-KOKUSA)	1,150.899ポイント	780.704ポイント (注2)
為替 (円/ドル)	132.535円	118.580円
(円/ユーロ)	115.624円	129.395円 (注3)

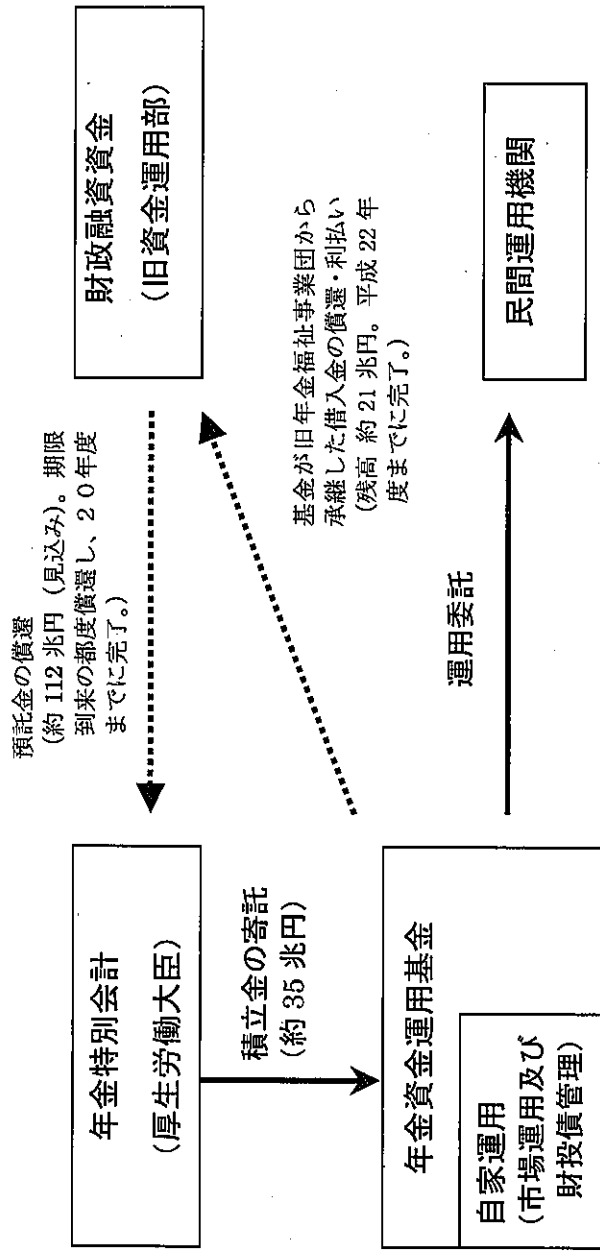
(参考6)

【新たな仕組み（平成13年度から）】

(ポイント)

- 厚生労働大臣による自主運用。
資金運用部への預託義務の廃止。
- 厚生労働大臣は、年金資金運用基金(平成13年4月設置)に資金を寄託することにより運用。

※図の数値は平成14年度末時点の残高。
※旧年金福祉事業団における運用業務は基金が承継し、承継資金運用業務として平成22年度まで実施。



【従来の仕組み（平成12年度まで）】

(ポイント)

- 積立金全額を資金運用部(旧大蔵省)へ義務預託。
- 年金福祉事業団が、資金運用部から資金を借り入れて、別途に運用。

※図の数値は平成12年度末

